

## 趣味は異炉偉炉から

有限会社 近藤築炉サービス  
取締役社長 近藤 正夫

### ●琵琶湖疎水を訪ねて

3年前の6月に初めて南禅寺の水路閣を訪ねて、琵琶湖疎水の偉大さに感動した私は、いつしか次は「琵琶湖疎水の取水口」を是非この目で実際に見てみたいと思うようになっていた。水路閣がインスタの画像より遥かに本物は、迫力があり、煉瓦職人の端くれとしてはただただ明治時代の職人技に圧倒さればなしであった。しかしその疏水を利用して運搬船に荷物を積んで琵琶湖から京都へ運んでいたことを知って、さらに驚いた。

次の日曜日、かねてから調べておいた資料や地図をリュックに忍ばせ、その恩恵を受けている「京都」経由で琵琶湖疎水の取水口がある「大津」へ向かった。JR東海道線の新快速を降りて、駅前の案内板をみる。大津は、日本一大きな湖「琵琶湖」に面し、今から1350年前、天智天皇により飛鳥地方から遷都された歴史ある街であると書いてある。

国の中心となった大津宮では、全国的な規模としては初の戸籍「庚午年籍(こうごねんじゃく)」の編成などの政治改革が進められた。

日本仏教の母山「比叡山」の狭間、世界的観光都市「京都」から、程近い場所に位置する「大津市」は、自然と歴史の宝庫だと言える。

琵琶湖は地理的にも日本のほぼ中心で、大昔から豊富な命の水を讃える我が国最大の湖で、多種多様な淡水魚が棲息し、広い田畑や潤して沿岸にすむ人々の生活を支えて来た。

さて、南禅寺の水路閣を訪ねた時は、赤煉瓦の連続アーチ橋の美しさに只々感動し、その当時の土木技術に感嘆し、現役のレンガ職人として、次から次へと湧き起こる自分の興味に時間の経つのも忘れて歩き回った。気がつくとお昼はとっくに過ぎて昼食を取るタイミングを失っていた。



今回はその教訓を行かして、まずは食料の調達にと駅のコンビニへ入ろうとしたら、隣に「大津ちゃんぽん」なる店を見つけ、そこに入ることにした。人気店のようでちょうど高校生達で賑わっていて、結構美味しかった。

ほど良い満腹感で、もう一度地図を確認しながら琵琶湖大津港を目指した。大津駅から中央通りで真っ直ぐ一本道だ。ゆったりした下り坂でちょっと南国風な雰囲気に向かって広大な日本一の淡水湖が見えてきた。間近で見るのは初めてで、その眺めはまるでオーシャンビューだ。

滋賀県のHPによれば、「滋賀県にある日本最大の淡水湖。およそ400万年もの長い歴史をもつ日本最古の湖で、世界中で20ほど存在する古代湖のうちの一つです。60種を超える固有種を誇るなど貴重な自然環境を有するとともに、近畿圏1,450万人の生活や産業の発展に欠かすことができない国民的資産です。」とある。

「琵琶湖の面積は約670 km<sup>2</sup>。湖岸の延長は約235 km。道路沿いに進めば約200kmで、自転車ではおおよそ1泊2日で一周でき、一番深いところの深さは約104 m。南北の長さは約60 km、東西の最大幅は約20 km。水の量は約275 億トン。これは琵琶湖の水を利用する淀川流域の1450 万人が1日に使う水の量のなんと約11年分に相当すると言う。」

さて、おおもとの琵琶湖に話が逸れたので、本題の「琵琶湖疏水」の話に戻そう。前回私は、南禅寺の水路閣を見て、赤煉瓦と石組みの12連アーチ橋に痛く感動したが、明治時代にその豊富な水資源を京都に導こうとした人物…それは前回述べた明治維新後の第3代京都府知事の北垣国道である。彼は明治14（1881）年京都府の年間予算の2倍という、莫大な工事費を要する前代未聞の大事業で、事前調査工事を皮切りに明治18（1885）年に工事が開始させた。東京遷都により衰退していく京都を救う一心であったという。

また、外国人技師に設計監督を委ねていた時代、すべてを日本人の手で行った我が国最初の大土木工事で、約400万人の作業員が従事したという。



色々とした資料を思い出しながら、緩やかな坂を下りていくと大きな観光ホテルが見えてきた。そして一気に外洋のような琵琶湖が、圧倒的な迫力で目に入って来る。突き当たりがまさに琵琶湖でその雄大さにただただ驚嘆してしまった。小さな観光船を見ながら、地図で確認する。

疏水の入り口はさらに左方向に進んだ先にあるようだ。アメリカンタイプの4階建外輪観光船乗り場を過ぎて行くと琵琶湖大津港があり、大型の観光船の乗り場になっている。琵琶湖一周遊覧船などのターミナルとなっていて。数箇所ある港のうち一番大きな港らしい。遡ると北国と畿内を結ぶ物資の湖上交通の要所として、秀吉は<sup>ひでよし</sup>大津港に大津百艘船仲間を作り、北国物資の集散地として栄えた港を作ったと説明があった。

疏水入り口が近くなってきた。ヨットマリーナが見え、湖岸沿いに進むと大きなマンションが見え、その先に念願の河口らしきものがありそうだ。ところがマンションの敷地が終わるところでフェンスが立ちほだかり、やむなくきた来た道を戻って、大通りへ出た。すると橋がかかっている地図を確認する



と、右手に琵琶湖に連なる河口がみえた。地図を見るとここが琵琶湖疎水の取入れ口のようなのだ。さらに詳しく見る「琵琶湖周航の歌」の歌碑が見える。その先に旧制三高艇庫(ヨットの倉庫/現ヨット倶楽部)があり、この歌はその旧制三高(現 京都大学)の寮歌・学生歌として長く歌われてきたが、1971年と加藤登紀子がカバーして大ヒットして有名になった。

いよいよこの左手が疎水のスタートで、明治時代に作られた探訪の始まりだ。左手を見ると、立派な水門のような建物が見える。これは説明板がなく**宿題**となっていたが、後で調べたらこの建物は「琵琶湖第一疎水揚水機場」で、琵琶湖の水位が下がった時に、ポンプで琵琶湖の水を吸い上げて、疏水に流す大事な施設と分かった。これは水門を兼ねていたようだ。

この後方は、疏水の川幅はぐっと狭くなり道路橋、京阪石山坂本線 🚦 橋の下を通る。鉄道ファンの小生としては、この直ぐ脇の三井寺駅付近の線路にビックリ。急カーブの上、急カント、つまり普通の電車の線路よりプラレールのようにデフォルメになっているのだ。電車を待ってみた...やはり、来たのは長さ15m級の可愛い電車が2両編成でカーブをモーター音が少し捻らし走って来た。通常一般的な電車の長さは、約20mで、この電車は路面電車(ついでにおまけ路面



電車は約11～13mです) 走行も可能な仕様になっている。橋の袂に「三井寺駅」がある。

踏切を渡って少し疎水に沿って歩くと気が付いた。疎水の両側の護岸は立派な石積みで四角く加工した石を城壁の基礎のように綺麗に積み上げている。さらに暫く歩くと橋がかかっている。橋の名を見ると「北国橋」とあり、調べるとかつて大津から敦賀へ向かう旧北国海道(西近江路)は、札の辻で東海道から分岐し、琵琶湖の西岸に沿って、海津から敦賀へ通じる道で古くから畿内と北陸を結ぶ道として利用されたと言う。

この大きな橋を後にして道路を渡り反対側を見ると、また水門らしい施設が見える。地図で見ると大津閘門という施設のような。琵琶湖の水位は、疎水路の水位よりも高いため(これは一番大事な条件だ)、大津閘門は、琵琶湖と疎水路を舟が行き来するときに、水門を開閉し、琵琶湖と疎水路の水位差を調整し、舟を通す役割を果たしているという。

閘室など重要な部分に石材が用いられている他は、レンガで築かれており、使用したレンガは約60万個に達します。琵琶湖疎水船(観光船/予約制)が67年ぶりに運行されるようになった現在は、年数回程度、船の運航シーズンの開始時と終了時に、舟を通過させるため、閘門を開閉しています。その様子は、疎水沿線からも眺めることができ、水門を通じて水が流れ込む様子

は、知られざる見どころらしいです。

この大津閘門からは、疎水の両サイドの土手が桜並木となり、春の桜が咲き乱れる頃に、疎水船に乗船しながら桜を愛でるのはとても贅沢だろうと情景を浮かべながらそう思った。ここでは船の方向転換もどうやらできるようになっていて、それも次回運行時に来てみたいものだと思った。



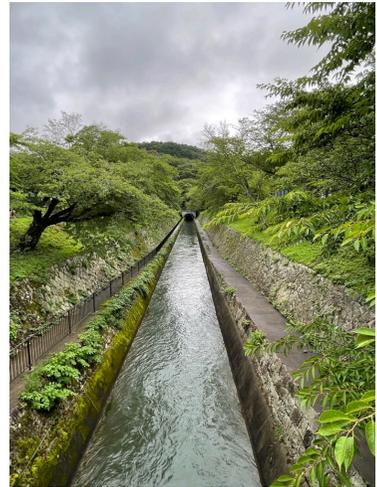
この先は、疎水は真っ直ぐに流れて、どうやら突き当たりの山にぶつかる感じだ。桜並木の両サイドは、周りの道から一段下がって疎水に沿って遊歩道になっている。取り敢えず、突き当たりの山、多分疎水はその先トンネルの中を流れていくのだろう。

そう言っている間に、トンネルの入り口が見えてきた。これが京都側に流れる第一トンネル入口(伊藤博文扁額「氣象萬千」)、第1疎水のトンネルなどに設置されている明治の元勳をはじめとする先人たちの揮ごうで、石に文

字を彫り込んだ額である。

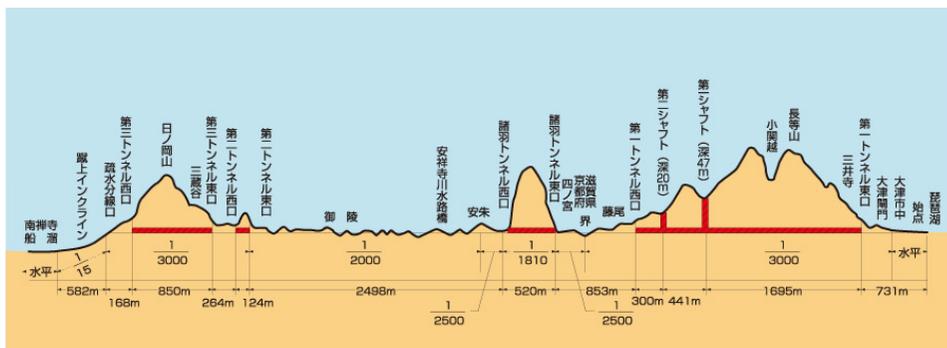
琵琶湖疏水のHPによると、大津側は文字を掘り下げた陰刻、京都側は文字が浮き出る陽刻にされており、デザインにも趣向が凝らされている。揮ごう文は、中国の古典などから引用され琵琶湖疏水の完成を称えています。琵琶湖疏水沿線や「びわ湖疏水船」の舟から見る事ができる。

第1疏水から京都へ送られる水は、水車動力や舟運、かんがい、防火、庭園用水（京都御所）など、多くの目的に利用されたが、最も人々の暮らしを変えたのは、当時の最先端技術であった**水力発電**であった。



この後私は、天台寺門宗の総本山で琵琶湖疏水を山裾に通した「三井寺」を散策した。本尊は弥勒菩薩。開基（創立者）は大友与多王。日本三不動の一つである黄不動で著名だ。由緒あるお寺で正式には御城寺といい、広大な敷地を有している西岸側の少し台の観月舞台から琵琶湖を臨み、明治の偉大な人たちに頭を下げた。

今度チャンスがあったら、琵琶湖疏水船の運行シーズン（できたら桜の季節）に疏水船に乗って疏水内外の探訪してみたい。また建設時におそらく整備されたと思われる遊歩道をゆっくり歩いてみたいと思った。



琵琶湖疏水の断面図

第29話 終わり

築炉 No.108